

令和6年能登半島地震被災港湾施設復旧技術検討会（第1回） 議事録概要

日時等：令和6年2月19日（月）16：00～18：00（WEB方式）

1. 主な議事

○事務局より、港湾施設の被災状況等を踏まえた復旧設計の考え方の方向性等について整理し、意見交換を行った。

2. 主な意見

（1）被災状況を踏まえた被災メカニズムの分析

○輪島港は地盤隆起により地盤が乱されるという表現があるが、地盤隆起は大規模な地殻変動によるものなので、これによって地盤が乱されることはない。地震の揺れによって、ケーソンに揺すり込み沈下が生じたものと推察される。

○飯田港の東防波堤は、港外側からの津波を受けているにもかかわらず、港外側へ転倒（回転）している。これは、円弧滑りが生じた可能性が高いと思われる。

（2）復旧設計の考え方の方向性

○復旧においては、地震前と同程度の安全率を確保するという考え方が重要であると思われる。

○本格的な復旧を要する施設と、軽易な復旧で良い施設の選別をいかに進めるかが重要である。

○矢板・栈橋等について、どの部材を再利用できるかという判断も重要である。

○復旧にスピード感は重要だと思うが、地域性（冬季風浪等）も考慮して復旧計画を立てて頂きたい。

3. まとめ

○地殻変動による隆起被害、液状化による沈降被害等、被災メカニズムを踏まえた復旧方針を検討すること。

○施設の機能、被災の程度を十分に考慮すること。

—以上—